

“I Have a Dream”を通して 子どもたちに伝えたい思い

桑山 洋

(奈良県奈良市立富雄中学校)

1. はじめに

10年以上も前から *NEW CROWN* ではこのタイトルが載せられており、英語暗唱大会でも題材としてよく取り上げられました。まだ自分の学校の教科書として *NEW CROWN* を使用していないころ、暗唱大会に参加する度に数名が発表するこのストーリーを聞き、感動を覚えたものです。

本教科書では、人として深く考えていきたい歴史や社会の問題、人権の問題などが多く扱われています。2年生の最後にカンボジアの地雷の現状に触れ、3年生の前半に原爆の子の像のモデルの佐々木禎子さんの話と“The Whale Rider”，そして3年の2学期、自らの進路を考え、視野を広く世の中に向けられるような時期になっていよいよこのLessonの登場。そしてそのあとに“A Vulture and a Child”が続きます。

私は、この“I Have a Dream”では、関係代名詞の学習や暗唱の題材など英語の教材として授業を展開するのはもちろんですが、人権学習の視点にもよりいっそうのウエイトを置いています。

2. 人権学習の視点からの導入

「ジョージア州アトランタといえば何を思い浮かべる？」

私の授業はこの言葉で始まります。答えは、

- ① オリンピック
- ② コカコーラ本社 (缶コーヒーはジョージア)
- ③ 風と共に去りぬ

そして、『風と共に去りぬ』の舞台、南北戦争の舞台なのです。南北戦争といえば、自由貿易や黒人奴隷制度を巡っての北部商工業地域と南部農業地域

の人々の戦いですよ」と続けます。

冒頭のキング牧師のスピーチを読んだあと、人種差別と奴隷制度にまつわるアメリカの歴史という時代背景から入ります。なぜ南部の地主が奴隷制撤廃を拒んだのかにも焦点を当て、“What do you do if you are an owner of a large farm?” “What do you think about it?” と、生徒たちの意見を聞いてみます。

そしてSection 2に入り、関係代名詞を使った文のリズムを楽しみながら音読するとともに、差別の実態や現状を読み進めます。また、教科書の写真の‘LADIES’ ‘MEN’ と ‘COLORED’ というトイレのドアを指し、「我々日本人はどちらのドアを使うのだろう。“Which door can you use?”」と、生徒たちに問いかけます。自分たちが‘COLORED’で被差別の立場であることを、初めて実感する生徒も少なくありません。この発問で生徒の目の色が変わります。人ごとではなくなるのでしょうか。

3. クライマックス そして暗唱へ

Section 3 はあのローザ・パークスのバス事件です。彼女は2005年10月に亡くなり、当時日本の新聞にも載りました。ここは切り抜いていたその記事を含めた差し込み資料プリントを使って深めていきます。

ドラマチックに仕立てられた場面設定によって、生徒たちの興味は引きつけられていきます。Section 4の権利獲得、ノーベル賞受賞、そして暗殺まで、生徒のイメージを十分にふくらませながら一気に読み進めていきます。また、Section 3に入ったあたりからこのLessonを暗唱しようと提案します。生徒たちがストーリーの内容、ドラマ性、

キング牧師の活躍にときめきと感動を覚え、自分の口で表現したいという気持ちを高めていくのです。

ちなみに私はこの題材に限らず、音読練習の時はよく立って読ませます。生徒が全員起立して、教科書を持って音読するのです。こうすることで生徒は読むこと以外はしなくなり、音読に集中できます。体が伸び、顔も上がるので声も大きくなります。さらに、対話形式の本文の時には隣の人や近くの人とペアワークをするのも簡単です。私が最近取り入れた授業の工夫の中では一番ヒットだと思っています。もしよかったですら皆さんもやってみて下さい。

さて、最後のキング牧師のスピーチの一節から、21世紀を生きる若者として、「差別や戦争がなく世界の人たちが互いに話をしてわかり合える世の中」「隣の人と手をつないで笑い合える世の中」「いろいろな肌の色の人が同じテーブルで食事を楽しめる世の中」を作っていこうと、生徒たちに訴えかけていきます。「そのために英語を学ぼう」「多くの人とわかり合える英語という言葉覚えよう」という話もここでは説得力があるようです。

授業を終えたとき、生徒の多くが、差別の実態やそれに立ち上がった人々の思いや歴史を知り、大人びたものの見方・考え方になったように感じました。

「キング牧師の熱い思いと、1年間もバスをボイコットし続けた人々の行動力に感動しました。一人ひとりの小さな力が集まれば、世の中を変えるほど大きな力になって、夢が実現することがわかりました。私も自分の夢に向かってがんばろうと思います。」

例年こういう流れでこの題材を扱ってきましたが、昨年はオバマ米大統領が大統領選でキング牧師の言葉を引用したことで、NHKが『その時歴史は動いた』でキング牧師を取り上げてくれました。そのドキュメンタリーの内容は、まさに私が毎年生徒たちに伝えようとしてきたことそのものでした。授業を終えてからクラスでそのVTRを見せたのですが、映像になっていることでさらにわかりやすく、特にバスボイコット事件は臨場感をもって見ることができました。今後このVTRをうまく使うことができれば、さらに洗練された教材に仕上がっていくように思います。

4. 人権学習の実践の中で

富雄中学校には、総合的な学習の時間や道德での国際理解と人権学習の流れがあります。1年生でユニセフの活動に学び、2年生ではアフリカの飢餓問題やストリートチルドレンの問題についてゲストティーチャーを招いて学習し、英語の授業でもカンボジアの題材の中で、栗本英世氏のVTRなどを見ながら学習を深めます。3年生になると、合唱コンクールの課題曲が「We are the World」で、1学期から練習を始めるのですが、歌詞の意味を学ぶと同時に、ビデオクリップを視聴し、当時の歌手の願いや思いを受け止めながら、心を合わせた合唱に毎日取り組んでいきます。そして9月に合唱コンクールが終わると、社会科と道德で部落問題学習を進めます。生徒たちは日本に目を向け、今も残る差別の現状を学び、人権感覚を高めていくのです。そしてその直後に、この「I Have a Dream」。今度は英語の授業で、アメリカの人種差別問題に取り組み、次の「A Vulture and a Child」で、生きること、食べること、共存、援助などについて改めて考えていきます。外国にも目を向けるのです。さらに12月には、在日の韓国人のゲストティーチャーを迎えて講演を聞き、クラスごとにチヂミを一緒に作って食べるという活動をしています。

英語を担当する私としては、このキング牧師の教材を英語としてはもちろん人権学習としても、3年生の学習の山場と位置づけ、前述したような思いで取り組んでいます。このようなすばらしい教材に出会ったことに感謝するとともに、世界の人々と手をつないで同じ思いを共有できるような生き方を、これからも生徒たちと一緒に考えていきたいと思っています。